

投与プロトコール 1コース21日間 制限なし 《開始時基準 PS:0~2 75歳以下》		投与量	投与日	投与時間	備考
プレメディ	グラニセトン注バッグ 3mg/100mL デキサート注 6.6mg/2mL	1袋 1V	Day1,8	30分 点滴	
①	ゲムシタビン 1250mg/m ² 5%ブドウ糖液	mg 100mL	Day1,8	30分 点滴	
フラッシュ	生理食塩液	50mL	Day1,8	全開	

<使用上の注意点>

【ゲムシタビン】

- ◆投与継続可否などの目安:白血球数が $2000/\text{mm}^3$ 未満、または血小板数が $7万/\text{mm}^3$ で投与延期し、骨髓機能が回復後一段階減量($800\text{mg}/\text{m}^2$)で再開する。
- ◆30分間で点滴静注。(海外の臨床試験で、点滴静注を60分以上かけて行くと、副作用が増強した例が報告されている。)
- ◆特徴的禁忌:胸部X線写真で明らかで、かつ臨床症状のある間質性肺炎または肺線維症のある患者、胸部への放射線治療を施行している患者。
- ◆血管痛が現れることがあるのでその際は患部を温める。
- ◆投与後発熱することがあるので、必要時は解熱剤を服用する。
- ◆間質性肺炎が現れることがあるので、胸部X線検査などを定期的に行うとともに症状(空咳、発熱など)に注意する。
- ◆溶解液を保存する場合は室温で保存し、24時間以内に使用する。

<減量基準>:臨床試験時の減量基準

- ◆ a) 発熱性好中球減少
 - b) 血小板 $<25000/\text{mm}^3$ もしくは、血小板減少に伴う出血のため血小板減少に伴う出血のため血小板輸血を実施した場合
 - c) 非血液毒性 \geq Grade3 (悪心、嘔吐、食欲不振を除く)
- a)~c)のどれかに当てはまれば次サイクルから、 $1000\text{mg}/\text{m}^2$ へ減量。
 $1000\text{mg}/\text{m}^2$ で同様の事象が発生すれば、 $800\text{mg}/\text{m}^2$ へ減量。
 Day8までの間に上記基準を満たせば、Day8の投与は省略する。